

行動分析学

科目ナンバリング EXP-304

選択 2単位

望月 要

1. 授業の概要(ねらい)

実験行動分析学 (The Experimental Analysis of Behavior) は20世紀に誕生した新しい学問である。その創設者であるB. F. Skinnerは、アメリカ心理学会により「20世紀の卓越した心理学者」の第1位に選ばれた。実験行動分析学は、生物の行動そのものを研究の対象とし、それを決定する環境との因果関係を明らかにしようとする。このアプローチは、物体の《運動》にだけ注目して、その法則を明らかにした物理学と共通している。この授業ではEABの背景をなす科学哲学である徹底的行動主義 (radical behaviorism) の特徴、EABの発展に大きく影響した研究テーマ、EABの応用である応用行動分析学 (Applied Behavior Analysis: ABA) について紹介する。

2. 授業の到達目標

- ・EABの科学哲学的特徴ならびに歴史的背景について、自分なりの意見を述べることができる。
- ・ABAの初歩的な概念を説明できる。

3. 成績評価の方法および基準

学期末試験の成績のみで成績を決める。試験は、あらゆる資料の持ち込みを認め、論述式問題で実施する。

4. 教科書・参考文献

教科書

テキストは使用しない。

参考文献

小野浩一(2016) 『行動の基礎 (改訂版)』 培風館

眞邊一近(2019) 『ポテンシャル学習心理学』 サイエンス社

佐藤方哉(1976) 『行動理論への招待』 大修館書店

ジェームズ・E. メイザー (2008) 『メイザーの学習と行動 (日本語版第3版)』 二瓶社

ミルテンバーガー-R.G. 園山繁樹・野呂文行・渡部匡隆・大石幸二(訳)(2006) 『行動変容法入門』 二瓶社

佐藤方哉(編)(1983) 『現代基礎心理学6 学習II その展開』 東京大学出版会

小川隆(監修)(1989) 『行動心理ハンドブック』 培風館

5. 準備学習の内容

毎回の講義で取り上げる話題について、基本的専門用語の定義は予習して理解した上で授業に臨むこと。毎回の講義の後、ノートを整理し、参考文献を参照して講義内容への理解を深めること。

6. その他履修上の注意事項

『学習心理学I・II』を履修済か、同時並行して履修していることが望ましい。

7. 授業内容

- 【第1回】 授業方針の説明,参考書籍の紹介
- 【第2回】 EABの特徴(1):実験と制御
- 【第3回】 EABの特徴(2):意識の扱い
- 【第4回】 心理学の歴史とEAB:Wundt,Watson,Skinner
- 【第5回】 EABに影響を与えた思想:ダーウィニズム,操作主義,論理実証主義
- 【第6回】 強化随伴性と強化スケジュールの復習
- 【第7回】 オペラント・レスポナント交互作用 (1)
- 【第8回】 オペラント・レスポナント交互作用 (2)
- 【第9回】 スケジュール・パフォーマンスの制御変数: VIとVR (1)
- 【第10回】 スケジュール・パフォーマンスの制御変数: VIとVR (2)
- 【第11回】 ABA
- 【第12回】 Small-Nデザイン
- 【第13回】 行動観察記録法 (1)
- 【第14回】 行動観察記録法 (2)
- 【第15回】 まとめ